

復活したパソコン学習会



「竹駒町コミュニティセンター」でのパソコン学習会の様子。再就職支援の観点から、しっかりとした書類が作れるくらいまでワードやエクセルを学ぶという。(写真：シニアネットリアス・高田)

仮設住宅での作業



自宅を津波で流された大久保さんは、現在、仮設住宅で暮らす。ここで学習会のテキスト作りなどの作業を行っている。狭い仮設住宅では、資料の保管場所を確保するのもひと苦労だという。

機材の支援と会場探しに奔走 半年後に学習会を再開

ゼロからの再出発 お世話になった地域に 恩返しをしたい

大久保勇作さんが顧問を務める「シニアネットリアス・高田」は、2003年に岩手県陸前高田市に設立された老舗のパソコン学習団体。多いときは20名ほどの学習クラスが七つもあつたといえます。そこに大震災が襲いました。

文／小野幸伸(編集部) 写真／井上健

「USBメモリー一本だけ持って、とにかく必死で避難しました」と当時の状況を語る大久保さん。自宅や学習会場として使っていた公民館は津波に流され、41台あつた学習用のパソコンや周辺機器もすべて失つてしまいました。津波で犠牲になつた会員もおり「一切適切なくなつて、シニアネットの復活は到底望めない」と大久保さんは感じました。

習会とシニアネット復活への一歩を踏み出すことにしました。復活への道のりは困難の連続でした。まず機材。震災でシニアネットのほとんどの会員がパソコンを失つています。大久保さんは様々な団体に声をかけてまわり、パソコンの提供をお願いしました。その努力が実り、多くの会員にパソコンを貸し出すことができました。

しかし、避難所から仮設住宅への入居が始まつたころ、パソコン学習会の復活を求める声が聞かれるようになってきました。「仕事も失い、仮設住宅ではぼんやりテレビを見て過ごすしかないんです。何か生きがいを見出したいという気持ちでパソコン学習会復活を望む声につながつたのでしよう」と大久保さん。「機材や会場を提供してもらつた。震災前は地域や市にお世話になつていたので、その恩返しをしたい」という思いもあり、学

大久保さんは、学習会場の確保にも奔走しました。被害の少なかった学校や公民館は、避難所になつていたり市の暫定的な事務所になつていたり、なかなか使うことができません。それでも大久保さんは、市や教育委員会などに足繁く通い、ようやく「竹駒町コミュニティセンター」という施設を使えることになりました。「でも、私たちが使っているわけではないので、日程を調整したり、場合によっては学習会を開講できなかつたりすることもあります」と大久保さんは話します。今では仮設住宅の集会所で学習会を開くこともあるそうです。

2011年9月2日に復活し